



陸の水

==== No.79 =====

日本陸水学会東海支部会

ニュースレター（2018年8月7日）

発行：日本陸水学会東海支部会

連絡先：〒501-6021 岐阜県各務原市

川島笠田町官有地無番地

国立研究開発法人土木研究所

自然共生研究センター

末吉 正尚

Tel: 0586-89-6036、Fax: 0586-89-6039

E-mail: m-sueyoshi55@pwri.go.jp

目次

- 第15回サマースクールの案内（p. 1～2）
- 第32回東海陸水談話会の案内（予告）（p. 2）
- 2018年度「研究助成」対象発表（p. 3）
- 編集後記（p. 3）

第15回サマースクールの案内

「静岡天竜フィールドを満喫しよう」

日時：2018年8月25日（土）13時～26日（日）13時ごろ（1泊2日）

場所：静岡県浜松市天竜区 阿多古川周辺

宿泊先：静岡大学天竜フィールド（上阿多古）

http://www.agr.shizuoka.ac.jp/dept/fc/forest/facilities_t.html

集合場所

○車の方：静岡大学天竜フィールド（静岡大学 上阿多古演習林）13:00 集合

※新東名高速「浜松浜北 IC」より30分 <https://goo.gl/maps/7AunbM5aWLD2>

○公共交通機関の方：遠州鉄道「西鹿島」駅 12:30 集合（会員の車に便乗）

※JR 浜松駅より30分程度

実習内容：天竜川支流の阿多古川での自然観察会

阿多古川周辺で生物観察（ヘボ追い）や川遊び、鍾乳洞（竜ヶ岩洞）の見学など。

※「ヘボ」とは「蜂の子」のことです。危険なことはしません。

参加費（予定）

大人一般7,000円、学生・年金生活の方5,000円、子供3,000円

※小中学生以下のお子さんは、必ず保護者の方のご同伴をお願いします。費用には、宿泊代、夕食代（バーベキュー）・朝食代、施設見学費、保険料を含みます。

募集人数：30名程度を上限とし、超過した場合には抽選とします。

必要品

川遊び用品（水着、水靴、水中眼鏡、タモ、釣具など）や林道を歩ける格好（藪には入りません）、帽子、着替え、水筒、タオル、筆記用具、常備薬、洗面用具、虫除け、生物採集用の道具など。

※寝室にはベッド（基本二段）があります。バスタオル、石鹸、シャンプー等は各自お持ちください。

申し込み方法

以下を記載の上、EメールもしくはFAXにて連絡先にご連絡ください。

- ・氏名（性別）
- ・年齢
- ・区分（一般、学生、年金生活者、子供、未就学児）
- ・住所
- ・連絡先電話番号
- ・Eメール
- ・当日の交通手段（自家用車 or 公共交通機関）

申し込み〆切り

2018年8月13日（月）※参加者には、後日改めて詳細な案内を差し上げます。

連絡先：サマースクール行事担当 新実 E-mail : tomo.niinomi@gmail.com
FAX : 0561-56-6140

第 32 回 東海陸水談話会の案内（予告）

「付着藻類の管理を目的とした川底への土砂供給」

講師： 土木研究所自然共生研究センター主任研究員 宮川幸雄 先生

日時： 平成30年10月3日（水） 18時～20時

場所： 名古屋大学減災館減災ホール http://www.gensai.nagoya-u.ac.jp/?page_id=27

講師の略歴

京都大学大学院工学研究科修士卒、社会人博士として平成30年3月に同大学院工学研究科で博士（工学）を取得。国土交通省技官、係長、土木研究所主査、同研究所自然共生研究センター研究員を経て、平成28年4月より現職。

CPD：本講演は、土木学会継続教育（CPD）制度のプログラム（2.0単位）に認定される予定です。

2018 年度「研究助成」対象発表

2018年度日本陸水学会東海支部会研究助成の募集に対して、計2件の申請を頂きました。支部会幹事による審査の結果、申請を受けた2件に対して総額10万円の助成を行うことを決定しましたので、ここでご報告いたします。

1. 研究タイトル：「生きもの調査 安間川水辺の体験プログラム」
助成対象団体：浜松環境ネットワーク 木下文恵
 2. 研究タイトル：「佐鳴湖に流入する段子川最上流域のリン・窒素濃度動態」
助成対象団体：静岡県立浜松工業高等学校 長野裕紀
-

（編集後記）

2018 年度初めてのニュースレターは、サマースクール・談話会の案内と研究助成対象の発表になりました。今年のサマースクールは静岡大学の天竜フィールドとそのすぐ脇を流れる阿多古川がメインとなります。阿多古川は天竜川の支流になりますが、その合流点は天竜本川に存在する大ダムの中で最下流に位置する船明ダムよりもさらに下流になるため、阿多古川は河口から大きなダムが存在しません。そのため、回遊魚を含め非常に豊富な魚類がみられるようです。川自体も平成の名水百選に指定されており、釣り人や観光客も多く、日本を代表する清流として人々に親しまれています。今年は猛暑日が続く、大人も子供も会社や学校への行き帰りだけでばてていることでしょうか。ぜひこの機会に家族で涼しい溪流での休日を過ごされてはいかがでしょうか。

今回の談話会は、私と同じ自然共生研究センター所属の宮川幸雄さんに発表して頂く予定です。宮川さんは昨年度京都大学防災研究所で社会人博士として学位を取得されました。河床を流れる掃流砂と藻類の関係に関して、実験系・現場調査含めて研究を進められています。上でも紹介しました天竜川では、今年の3月に天竜川流砂系総合土砂管理計画（浜松河川国道事務所 HP）が策定されており、防災や治水、利水と河川が本来有する土砂移動の連続性を両立させるための管理指針が示されています。土砂の移動が変わると生物の生息する環境も大きく変化するため、土砂と生物との関係性を調べておくことは、今後の河川管理によって河川生態系がどのように変化していくのかを予測するために必要不可欠となります。昨年度に続き、CPD 単位も認定されますので、参加予定で必要な方は当日役員までご問合せください。

研究助成は、計2課題を助成対象としました。どちらも子供や学生が陸水環境、生物を学ぶための教育プログラムとなっています。都市の集中化や、安全面など様々な理由で子供が河川湖沼と関わる機会は減っているのではないのでしょうか。最近の研究では、子供時代の経験の消失が環境問題への認識や将来の保全に対する投資に負の影響を及ぼすことが分かってきているようです。そうならないためにも、これらの助成が陸水環境に興味をもつ世代の育成につながってほしいと思います。

（末吉 正尚）